
透析専門病院附設の特別養護老人ホームにおける「看取りについての事前調査書」の聞き取りを実施して

社会福祉法人 照善会 こくら庵

○甲斐智子 桑内清美 山元紀子 小松利恵子 船越 哲

【はじめに】

当施設は入居者全員が要介護3以上の透析患者であり、定員29名のうち年間の死亡者数は9～15名という状況である。2006年の介護報酬改定の際に『看取り加算』が加えられた背景には、高齢化とともに死亡者数の増加があり、当施設でも看取りは避けて通れないと考える。今回入居者と家族に看取りについての事前調査を行った。

【方法・対象】

キーパーソンに書面で了解を得た上で、現在の入居者に看取りの場所や、さらに余命が短いと推定された際の透析継続について聞き取りを行った。入居者は長谷川式認知スケールを参考に、聞き取りが出来る範囲を限定して実施した。

【結果】

長谷川式スケールの平均点数は11点であった。質問に対して「無回答」が約1割あったが、その他は何らかの意思表示をした。特に、「看取りの場所」の質問には入居者の約3割が「わからない」と回答した。

【考察】

今回の結果より、ほとんどの入居者は認知症を有していても看取りについてのイメージを抱いており、看取りについての事前調査書は認知レベルのどの段階でもとる意味があると考えられる。しかし、十分な倫理的配慮が必要であり、入居者・キーパーソン・主治医・施設の4者のコミュニケーションと信頼関係が重要と思われる。